

# 「ブーム再び」膨らむ期待



今も多くの人が訪れる北海道帯広市の幸福駅＝7月

## 幸福駅 秋に新装

縁起の良い名前が人気を呼び、北海道・十勝観光の目玉となってきた旧国鉄広尾線幸福駅(帯広市)が秋に生まれ変わる。地元では「ブームと」なった40年前のように、世相を明るく盛り上げてほしい」と期待が膨らむ。

千万円かけ改築する。使われている木材をできるだけ再利用して建て直し、周囲にはバラのアーチと鐘を設置。10月中に工事を終える予定だ。幸福駅は50年に臨時乗降場

として設置され、56年に駅に昇格した。73年、NHKの紀行番組に登場すると一躍知名度が上昇。沿線の愛国駅からの区間切符は「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズとともに、その後4年間で1千万枚以上が売れた「ヒット商品」となった。

券売機がなかった幸福駅の区間切符販売を国鉄に提案したのは、東京のアイデア雑貨販売会社社長飛田和義さん(72)。「オイルショックで暗い世相を明るくしたかった」と振り返る。

今年10万人以上が訪れる名所で、2008年にNPO法人から「恋人の聖地」認定を受けた。地元の観光協会が始めた、タキシードとドレス姿で記念写真を撮れるイベントも好評だ。

帯広市観光課は「改築を発表したら全国から問い合わせが来た。知名度を生かして一層の活用を進めたい」と意気込む。

木造平屋の幸福駅は、1987年の広尾線廃線後もホームや線路の一部とともに、帯広空港近くの田園地帯にある。駅舎には「遠距離恋愛フアイト」などと書かれた無数のカードが貼られ、外国語も交じる。

市は老朽化した駅舎を約3